

城下町再生によるコンパクトなまちづくり

～西尾市旧城下町地区のとりくみ～ 伊藤 彩子

西尾の城下町は「総構え」と呼ばれる形式が特徴である。これは、堀と土塁に囲まれた中に武士、商人、農民が混在して生活するというもので、城下町の中では比較的珍しいものであるようだ。城下町時代の町割り、大正期から昭和初期に再整備された町並み、神社仏閣が残っており、「三河の小京都」にも選定されているが、中心市街地の衰退にともなって風情ある町並みは徐々に失われている。この城下町において、歴史ある町並みを保全しつつ美しい都市景観を創出し、住みやすい居住空間として再生していこうという取り組みがはじまっている。

城下町はコンパクトなまちの原型

西尾市の旧城下町地区は、二〇〇五年「全国都市再生モデル調査」の調査対象地区として選定され、これを受けて地域の事業者や行政職員、学識者など約五十名による「西尾城下町再生委員会」が結成された。

西尾の城下町は武士、商人、農民が外堀で囲まれた中に混在して生活する「総構え」と呼ばれる形式を持ち、城下町内外の出入りができるのは、西尾五か所門と称された五つの通用門だけであった。おそらく、これらの門を通過して外部に出るといのは特別な用事のある時だけであり、城下町に暮らす武士、商人などの日常生活は基本的には堀の内側で営まれていたと想像される。つまり、日常生活に必要な要素を堀の内側に備えた「コンパクトなまち」がここにあったと考えられるのである。

城下町再生による都市管理の効率化を

隣接地域で宅地開発が進められたこともあり、旧城下町地区では人口のドーナツ化、高齢化が進んでいる。しかし、こ

れから人口減少時代に入り、市街地密度が低下していくと、これまでのような拡散した都市構造を持つていたのでは市街地の維持管理費がかさみ非効率になる。そこで、本来便利で居住性に富んでいたはずの城下町に、居住をはじめとした都市機能を集めて、コンパクトなまちをつくっていこうというのが、今回発足した委員会が掲げるテーマである。そのために活力を失っている旧城下町地区を、豊かな歴史を活かした、美しい景観を持つ住みよい町として再生していこうとしている。

熱意ある市民の存在が鍵

西尾では、身銭を切つてまちづくりに貢献するなど、非常に意欲的な市民の存在がある。彼らを行動に駆り立てるのはおそらく、歴史ある城下町西尾への誇りと愛着であろう。これから、「城下町を再生したコンパクトなまち」を本當につくっていこうとするためには、多くの労力と時間、知恵が必要になるが、彼らの存在が大きな力になると思われる。（参考資料『西尾城下町ガイドブック』）



(上) 城下町時代の堀跡に流れる水路。このように、城下町の町割りを示すものが各所に残されている。
(右上) 本町に建つ商店。本町にはこのような昭和レトロ風建築が多く建ち並んでいる。
(右下) 順海町の路地。旧城下町地区の中で最も美しい場所のひとつ。

まちづくり交付金の活用による歴史を活かしたまちづくり

～津島市中心市街地地区のとりくみ～ 伊藤 彩子

津島の中心市街地でも、まちづくり交付金を活用した中心市街地の再生が動き出した。



絵：皆戸正幸さん

見をもらい、今後の事業の進め方の指針づくりをしている。この指針にもつき、来年度以降、町並みと調和する道路整備や町並みガイドラインづくりが進められていく予定になっている。明治・大正・昭和初期に毛織物産業で栄えた時代を象徴する建物である旧津島信用金庫本店の市への譲渡も決まり、市民が運営に関わる形で拠点的な施設として活用される予定である。

力をつける市民

津島では、二〇〇〇年に発足した天王文化塾の活動をきっかけに、二〇〇三年には古い町並みの中心部に住む住民による「トノ割会」が、二〇〇四年にはNPO法人まちづくり津島が発足するなど、市民による活動が非常に盛り上がりつつあり、地元歴史・文化を学ぶ勉強会、住民手づくりの数々のイベント、まちづくり拠点の設置など、実に積極的な活動がなされている。

住民がこのような組織の中で自主的な勉強会を行ったり、行政が主催するワークショップに参加する中で、実際に町並みの保全を進めていくためにはどういった制度を利用したらよいかを考えるなど、まちづくりを現実的に進めていくための手法についての知識も少しずつ身につけてきており、行政と対等に議論できる素地ができつつある。

「津島の景観を守る仕組みづくりの最後のチャンス」と言つ住民もおり、私も何らかの効果的な仕組みづくりのサポートができるように頑張りたいと思っている。

まちづくり交付金の活用

津島の中心市街地では、二〇〇一年度から「歴史を活かしたまちづくり」に向けた調査が市によって行われてきており、古い町並みの住民に対するアンケート調査、町並み景観やまちづくりの方向性を考える住民ワークショップなどを行う中で、住民の機運を盛り上げつつ、歴史を活かしたまちづくりを実施していく足固めがされてきた。そして一連の調査成果を具体的な形にしていいため、二〇〇五年から、国の支援施策である「まちづくり交付金」を受けて、実際の事業を進めていくことになった。

景観整備の実現化に向けて

交付期間の五カ年のうち、一年目である今年度は、歴史を活かしたまちづくりを実施していくための「本町筋まちづくり基本方針」を作成している。市民代表などによる「アドバイザー会議」や広報掲載による意見募集によって市民から意



今年度、基本方針案に対する意見を聞くためのワークショップが開催され、その中で古建築に詳しい専門家を講師に迎えた町並み勉強会も行われた。写真は様子。